

人文学会報

No.76・77
合併号
2016. 3. 18

事務局 鹿児島市下伊敷二丁目52番1号 県立短期大学文学科研究室
鹿児島県立短期大学 人文学会

電話(〇九九)二〇一―二一―

〈研究室だより〉

県短に着任して

石井 英里子

二〇一五年4月に県短に着任しました石井英里子と申します。宮崎県出身です。沖縄、千葉、神奈川、大阪、宮崎で育ち、短期大学進学をきっかけに関東へ戻り、その後大学院でアメリカのサンフランシスコに留学しました。帰国後しばらく東京で暮らし、昨年3月鹿児島に参りました。九州で暮らすのは高校卒業以来になります。

前任校の東海大学では、外国語教育センターに所属し、主に英語科目を担当しました。兼任で情報通信学部というIT系の学部専属の教養教育部門に所属し、TOEICやITエンジニアが求められる英語力を育成するためのカリキュラム

開発に携わってきました。英語以外では、比較・国際教育学、教職論、教育実践演習などの授業を担当してきました。

現在は英語英文学専攻に所属し、「コミュニケーション概論」や「英語学演習」など、主にコミュニケーション研究や英語学(応用言語学系)に関連する科目を担当しています。

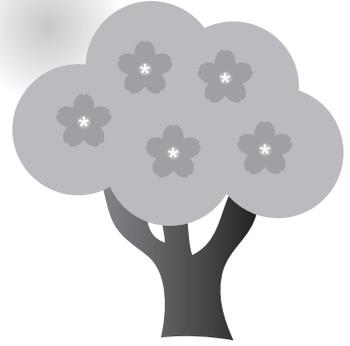
専門は教育学です。研究活動では、外国語教育、第二言語習得研究、異文化教育という分野を横断的にアプローチすることによって、私たちの住む多文化共生社会で求められる能力を育てる方法について研究しています。「文化の異なる人々同士は、理解し合うことができない」という前提に立ち、「では、どのようにしたら歩み寄れるか?」ということを日々考えています。現在担当している「コミュニケーション概論」の講義ではこのような命題を軸に講義を展開しています。

また、英語関連の科目も担当しており

ます。英語に限らず、言語はいろいろな人と出会う機会を作るツールです。学生の皆さんには、そのツールを使って多様性と向き合い、その中から普遍性を見つけ出す力を身につけて欲しいと思います。そのために、私はコミュニケーションに関わる教育活動全体を通して、学生ひとりひとりの人生に新しいドアを作る支援をして参りたいと思っております。

着任以来、さまざまな場面でご指導とご助言をくださる文学科の先生方、そしていつも授業を中心として刺激を与えてくれている学生の皆さんに深く感謝申し上げます。まだ教員歴が短く微力ではありますが、県短で教員として働くことができるご縁に感謝し、教育者として、教育と研究の相乗効果が発揮されるよう、県短での教育活動を日々追求していきたくと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(文学科英語英文学専攻 准教授)



読書する愉しみ

小林 朋子

文学科の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。中谷彩一郎先生の後任として二〇一五年五月に着任いたしました小林朋子です。専門は比較文学・アメリカ文学で、特にアフリカ系アメリカ人の文学について研究しています。

一年足らずの短い間でしたが、ゼミや授業で皆さんと共有できた時間は貴重な思い出になりました。キャンパスでバツ

タリお会いできないと思うと寂しい限りですが、またいつか元気な顔を見せてもらうことを楽しみに研究室で待っています。文学科で学んでこられた皆さんに一九九三年にノーベル文学賞を受賞したアフリカ系アメリカ人作家トニ・モリスンの言葉を紹介したいと思います。学び舎を離れ、それぞれの道を歩き出そうとしておられる皆さんへのはなむけの言葉になればいいのですが。

“We die. That may be the meaning of life.

But we do language. That may be the measure of our lives.” 私たちは限りある

生を全うするため「言語を行う」ことができる。モリスンは述べます。それは我々が生きるための術（すべ）だと。「言語を行う」こと、例えば一冊の本をじっくり読み考えることは、それを書いた人が作った「語りの場」でその人と対話することです。文学は一人の人間に立脚点を置いて世界を記述する芸術であると言えると思います。文学作品を読むとは他者の世界観を学ぶことにはかなりません。読書を通して人々の価値観や生き方を学ぶことで、一見自分とはかけ離れたように

見える人々の中にも、実は自分と共鳴する部分があることを教えられることもあるかもしれません。一冊の本と向き合うことで生まれる自分だけの静かな時間は、これから様々な価値観が錯綜する社会に出て行かれるみなさんを折にふれて励ましてくれるはず。人間関係で悩んだとき、現実を少し離れ世界観を広げられる幸運な一冊の本との出会いができませんように、これからも読書する愉しみを忘れないでください。

(文学科英語英文学専攻 専任講師)



自分なりのスタイルで

高下 亜弓

県立短大の文科学科のみなさん、こんにちは。私は現在、生活科学科の揚村先生の御紹介で七ツ島にある加根又工事というガラス・サッシの卸売業・施工業をおこなう会社で積算事務として働いております。

みなさんは、二〇〇三年『Dr.コトー診療所』の主題歌であった「銀の龍の背に乗って」(作詞・作曲 中島みゆき)という曲をご存知でしょうか。あれは私がまだ中学一年生、十三歳の頃。(みなさんのもっと若い……というより小さかったと思いますが)当時働くサラリーマンたちの癒しの曲としてもはやされました。「はあ〜なんだか曲調も重苦しいし暗い歌だなあ〜」と思いつながら聴いていたこの曲を、十数年経った今、あの頃とは全く違う気持ちで聴いている自分がいるのです。実際どういった背景で描かれている曲な

のかは全く知りませんし、実はこのドラマさえも観たことはないのですが、この曲の冒頭二行目の「まだ飛べない雛たちみたいに 僕はこの非力を嘆いている」という歌詞にとっても共感しました。働き始めて右も左もわからなかったとき、先輩が得意仕事を教えるようになった現在でも、伝えたい情報がなかなか伝わらない、仕事がスムーズにいかないなど小さなトラブルは度々あります。どうしてこくなつたのだろうか、自分の教え方が悪かったのだろうか、もっと工夫すればこの仕事の楽しさを共有できるのではないかなど自省する中で自分の無力さを感じずにはいられない日々が続くときもあります。入社し上司の熱心な教えのおかげで小手先だけでない自分のなりの仕事スタイルというものを確立しつつあります。後輩のおかげで今までの自分一人だけで行う仕事とは格段に違う勉強をさせてもらえていると感謝しています。

私が働き始めて大切であると考えるところは、まずはやはり人の話を聞くことです。相手を少しでも理解しようという誠意は人を動かします。本社の一級建築士

で今とてもお世話になっている方の言葉なのですが、「人は頭を下げれば必ず心を開いてくれる」と言われたことがあります。プライドや責任などが邪魔をして自分を守ることにしかベクトルが向いていないとかなりきついものです。案外頭を下げて「悪いけど」という感じで頼ってあげば人は助けてくれるものだなあと感じていきます。頼ることは弱さではなく頼った先の人への信頼なのではないでしょうか。自分一人ではまだちっぽけかもしれないけれど、誰かと一緒であれば大きな力になります。現在は積算事務にプラスして入社以来の希望であった建築の方の勉強もさせてもらっています。実際に工事現場などへ足を運び、病院や家など建物が建っていく工程をみることにすごく楽しさを覚えていきます。これからは見るだけでなくその場で役に立つ自分になれるように精進していきたいと思っています。また余談ではありますが、仕事以外では文科学科木戸先生に紹介していただいたバリーダンスを趣味として楽しんでいます。すごく妖艶で美しいダンスです。毎週木曜日宝山ホール二階エレベーターを降り

てすぐ目の前。十九時十五分から。興味のある方は、ぜひ（笑）

私の大好きな県立短大を、卒業する後輩の皆様方におかれましても、仕事・プライベートどちらも大切に、自分なりのスタイルで未来を謳歌して行ってほしいと願っています。

（平成24年3月日本語日本文学専攻卒業、加根又工事株式会社）



わたしの仕事。

島田 瑠美

わたしは保険会社に就職し、もうすぐ三年が経とうとしています。保険会社には、生命保険と損害保険がありますが、わたしは損害保険の方です。家が火事になってしまったり、自動車事故を起こし

てしまったり、偶然な事故により生じた損害を補償するのが損害保険です。

わたしの仕事は、自動車事故にあわれてしまった方から事故の報告を受け、損害調査し保険金をお支払いすることです。自動車の保険には、国の法律で契約が義務付けられている自賠責保険と、任意で加入する自動車保険がありますが、任意保険の対応が主になります。わたしの部署には、事故を起こしたとの連絡が、直接、フリーダイヤルにて入ります。初めて事故の連絡を受けたとき、電話を握りしめ、耳に強く押しつけすぎ、一回の電話で一日分のエネルギーを使ってしまったと思うほど緊張したことは、今でもはっきり覚えています。

事故のご報告をいただいた後は、初動をします。ほとんどのお客さまは、事故発生の直後に、心配な気持ちや不安を抱えた状態で連絡されます。事故直後のご連絡だと、うまく聞き取りができない場合もあるので、初動では再度事故状況を確認します。相手がいる事故であれば、相手サイドの事故状況も確認します。ご契約者さまとお相手との事故状況を照ら

し合わせるためです。ご契約者さまの味方なのですが、お互いの主張が全く違った場合は、どちらの状況が本当の事故状況に近いのか判断に悩むこともあります。また相手の方が、任意保険に未加入だったり、実際にはお互いに責任割合が発生するのに無過失を主張されたりするときは、交渉が長引くことが多いので、特に大変です。今もですが、強い主張をされる方との交渉は、緊張し力が入るので、交渉だけなのにとっても体力を使います。交渉後は、いつもへとへとです。

初動後は、アジャスターへ案件を引き継ぎます。アジャスターは、相手の保険会社や相手へ、解決までの示談交渉を行います。他損保との違いは、事故現場、車両損害確認を行ったアジャスターがそのまま案件を担当するところです。電話だけではわからない部分を直接目で見て確認し、それを行った者が交渉窓口となるので、そこがわたしの会社の強味です。アジャスターが解決してくれた案件は、お支払い手続きのため、わたしまで戻ってきます。最後のご案内の際に、お世話になりました、ありがとうございました、

と言われると本当に嬉しい気持ちでいっぱいになります。あの時、めげずに交渉を頑張って本当によかったと思います。

ただ、お客様の思いにお応えすることができず、満足のいくサービスにならなかった場合はお叱りの言葉をいただくこともありえます。そんな時は、お客様からの気持ちをくみ取れなかった自分の未熟さにただただ落ち込みます。これは今でもわたしの課題なのですが、先輩や上司に相談しアドバイスをもらい、同じことを繰り返さないよう日々見直し反省しています。また、勉強でカバーできる部分は、わたし自身の知識不足やスキルの無さで、お客様を心配させてしまわないよう、研修に積極的に参加したり、関連分野の資格をとるための勉強に励んでいます。

また、わたしの部署には同期はいないので、全国には約70名いるので休みの日には、同期に会いに旅行に行ったりして、ちょっとした息抜きもできています。同期や先輩に支えながらも、お客さまに「この保険に入っていてよかった。」ともっと言っていただけのように、これから日々の仕事を通し、たくさん学び、

成長していきたいと思っています。

(平成25年3月英語英文学卒業、共栄火災海上保険株式会社)



教職に就いて

濱 千種

教職1年目は、学校や業務になれることに必死で毎日本当に慌ただしく過ごしていました。毎週、指導教官が来校し4時間初任者研修をして下さいました。大学の教職課程よりさらに詳しく、専門的なことを丁寧に教えていただきました。専門教科や道徳、学活の研究授業を1度ずつさせていただく際は、とても不安で時間もかかりしんどかったです。しかし、指導教官や先輩先生方に指導案や授業展開など多くのご指導をいただき、大変勉強になりました。他にも初任者研修では、

他校種参観として養護学校や小中学校を訪問させていただく機会もありました。

2年目を迎えた今でも、毎日分からないことや上手いかなんかの連続で悩みの絶えない日々であります。教育実習とは違い、生徒たちや保護者の方々と関わる時間が長くなり、話をする機会も増えました。正直、教えることよりも、生徒たちから教わることの方が多いです。彼らが私を教師にしてくれています。私の英語教師としての目標は、英語や異文化の楽しさを実感し、日本と外国の架け橋となる生徒を育成することです。英語が好きなのは細かい部分まで質問をしたり、洋楽の話をしたりします。その反面、英語の必要性を問う生徒もいます。苦手と嫌い、得意と好きの違いを理解している、「どうせずっと日本にいるし、英語は必要ない。」と言い、寂しくなります。ただ、そのような生徒が一瞬でも、英語楽しい！分かったと思ってくれるよう、日々の教材研究や授業作りに取り組んでいます。また先輩先生方の授業を参観させていただいたり、研修等に参加したりして、学んだことを授業に導入していま

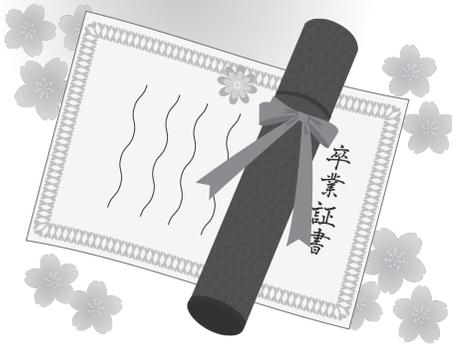
す。このように試行錯誤の毎日で、自分のスタイルを確立出来ずにはありますが、毎日が勉強です。また、部活動や生徒指導も慣れないことばかりですが、研修や講話への参加や先輩先生方への相談・連携を通して早期解決・より良い指導に努めています。

教師という仕事は、楽しい事ばかりではありません。また、人として大切なものは何か、生徒の鏡となっているか、目の前の生徒たちに何をしてあげられるかなど責任は大きいですが、多感な生徒たちとのふれ合いは楽しく、多くのことを学べます。不安とプレッシャーで自分を見失いそうになる事もありますが、自分の仕事やできることに精進し、先生方や保護者・地域の方々と協力して、生徒たちの笑顔を守り、健やかな成長を第一に今後も教育に携わっていきたいです。そして、育てて下さった恩師の先生方に感謝しながら、「二期一会」と「我以外皆恩師」を胸に、一社会人として、教師として成長していきたいです。

教職を目指されている皆さん、あなたとの貴重な出逢い、あなたから教わるこ

とをたくさん生徒が心待ちにしています。教職以外を目指されているみなさん、もご自分の夢に向かって笑顔で歩み続けてください。また、今しかできない事、やりたい事をやりたい仲間と存分に満喫してください！

(平成22年3月英語英文学専攻卒業、平成24年12月ウイスコンシン州立大学リバーフォールズ校卒業、現いちき串木野市立串木野中学校教諭)



〈卒業にあたって〉

県短での学生生活を通して

文学科日本語日本文学専攻

二之宮 健 汰

卒業を前にして、この県短での2年間を通して感じたことを書いていこうと思います。

私は、第一志望の大学に落ちてしまい県短に入学することになりました。入学式では、男女比にとっても驚いたことを覚えていきます。日本語日本文学専攻の中では、男が自分1人という状況でなかなか馴染むことができませんでした。県短の特徴の一つとして、他の大学と比べて学生と先生の距離が近いというものがあると思います。何かあったときに声をかけていただく機会が多くありました。県短に入る前は、先生と話すということがあまり好きではなく極力避けてきましたが、県短に入学してからは、先生方と話をすることがが苦手ではなくなりました。相談事を聴いてくださった先生方にはとても感謝しています。

県短では、たくさんイベントごとに挑戦する機会が多かったように思います。1年後期からは、コープ委員長（県短生協の学生コープ委員会委員長）を務めました。ここでは、大勢の人前で話すなど今まで経験してこなかったことを多く経験できました。また、2年からは、自治会に入り活動しました。私は総務部で新生歓迎会やおはら祭を主に担当しましたが、その他にも文化祭や学内開放でも男ならではのようない仕事などもしました。イベントを重ねるごとに個人的には成長できているかなと感じるものになりました。自治会はこの2年間で一番大きな比重を占めるものでした。新入生歓迎会や文化祭など今までは自分たちがもてなされる側でしたが、自分たちが計画からしていくというのはとてもいい経験になりました。自治会では、このようにイベントごとなどがあるたびに、同じ専攻だけでなく他の学部専攻の人と会話をする機会が増えていきました。他の専攻の学生と話すのは普段あまりなかったのですがその点でも自治会で活動できてよかったと感じます。

他にも、県短では今まで会ったことのないような人が多かった印象です。特に同学年の男子は数が少なく、結束が強くサークル活動や自治会、バイトなど様々な場面でいろいろな自分にはない面が見つかってとても強く印象に残っています。

県短生活2年間を通して、いろいろな学ぶことが多くありました。前にも書いたように自治会で活動したことでコープ委員長を務めたことは、これから先いろいろな場面で役に立つのではないかなと思います。また、県短の先生方やバイトで知り合った自分よりも一回り年上の方の話を聴くことも機会も増えとても自分のためになり、考えさせられることも多かったです。人間関係の面では、大学生ということで行動範囲が広がり県短以外で様々な人と出会うことができました。

春から、自分が進みたいと思っていた進路である鹿屋体育大学の編入が決まりました。入学当初は諦めていましたが、結果的に自分の進みたい方へ行けたことをとてもうれしく思います。県短では日本語日本文学専攻で全く違う進路ですが、県短で学んだ学業以外の部分も活かして

いければと思います。

最初のうちは、男女比などに圧倒され入学したことを後悔することさえありましたが、振り返ってみるとこの2年間は、本当にいろいろな経験ができた2年間でした。この2年間でこれから先大事にしたいと思います。



県短での学生生活

文学科日本語日本文学専攻

竹 元 遥 名

卒業を前に学生生活を振り返ってみると、私は県短で過ごした二年間の学生生活の中で、様々なことを経験し、学ぶことができたと思う。

サークル活動では、ボランティアサークルでの活動として、国際交流のイベン

トでスタッフとして参加し、外国人の方々
と深い交流をすることができた。また、
アジアの国々の文化にも触れることがで
き、とても貴重な経験をすることができ
た。ボランティア関連では、遠泳大会の
スタッフとして何度か研修に参加した。
大会こそ台風の影響で中止になってし
まったものの、十数回の研修でチームワ
ークの大切さや、チームのリーダーとし
て皆を引っ張っていくことの難しさを学ん
だ。

大学に入学してからは人生で初めての
アルバイトも始めた。初めは、わからな
いことも多く、周りに迷惑をかけてしまっ
たこともあったが、自分がした仕事でお
礼を言われたり、その仕事の成果を結果
として感じる事ができたりしたときは
とても嬉しかったし、自分で働いてお金
を稼ぐことの大変さも知ることができた。

自治会の活動では、自分たちで行事を
企画・運営していくことの厳しさ、楽し
さを感じた。私は、体育部の部長として
体育祭の運営を中心に活動を行った。部
長という責任感を感じながら、一からひ
とつの行事を作るという経験はこれまで

したことがなく、初めてのことでただけで
戸惑うことばかりだったが、支えてくれ
た周りの自治会役員の協力のおかげで、
無事に二回の体育祭を終えることができ
た。その他の行事の運営にも関わり、皆
と協力してひとつのものを作り上げる大
変さと、無事ひとつの行事を終えたとき
の達成感、喜び、そして反省点を洗い出
してよりよいものをつくっていく楽しさ
を、身をもって感じる事ができた。自
治会での活動は、私の学生生活の中で、
とても大きな財産になったように感じる。

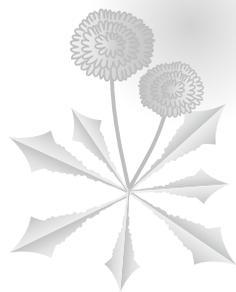
そして、県短の学生生活を振り返って、
一番の自分にとっての財産になったもの
といえば、たくさんの友だちを作ること
ができたことだと思う。同じ専攻の友達
はもちろん、ボランティアなどの学外で
の活動では他の大学の学生と仲良くなる
こともできたし、自治会の活動では、他
の専攻の学生や、一年生、二部の学生と
も仲良くなる事ができ、友達の幅がと
ても広がったように感じる。様々な活動
をこの二年間でしてきたが、その活動で
得たものは、経験を積めたということの
ほかに、友達が増えたこともある。たく

いと思う。

さんの友達ができただことで、様々な活動をしていてよかったと改めて感じた。その中で、一生の友になるであろう友達も得ることができたし、幅広い友達と接していく中で、ほんとうにたくさん人の刺激を受けた。自分が今までしてこなかったような経験をしている友達や、自分とは全くちがう趣味を持っている友達などの話はとても興味深く聞くことができた。大学で出会う友達は、ほんとうに幅が広く、自分を見つめ直すきっかけを与えてもらったと感じる。

県短で学んだことは、もちろん勉強の面でもたくさんある。自分がしたかった日本語についての研究もできたし、高校までの授業に比べれば、自分の興味深い授業が多く、楽しい授業ばかりだったと思う。また改めて日本語に興味を持てたし、日本語を好きになることができた。

卒業を前に学生生活を振り返ると、この二年間は濃かったなと感じる。毎日が充実していて、二年間はほんとうに早かった。だからこそ、私はこの二年間で学び、得たものをこれから社会人になり大人として生きていく上で、大切にしていきたい



一年間に感謝を込めて

文学科英語英文学専攻

福田 千聖

あったら 便利かなという軽い気持ちで英語英文学専攻を受験してしまったのです。

しかし、いざ県短に入学してみると、周りの友達は、留学経験があり英語が流暢だったり、英語や外国のことが好きだったり、英語に関係する仕事に就く夢を持っていたりと、しっかりと目標を持っている人達ばかりで、軽い気持ちで県短に来ってしまった私は、入学当初、場違いなところに来てしまったと感じ、もう英語を勉強したくない、学校に行きたくないということばかりを思っていました。

そんな投げやりだった私が、さらに英語を勉強するために四年制大学に編入をするという大きな決断に至ったのには、県短で学んだことが大きく影響していると思います。

中学校、高校時代の私は、英語の成績が良かったので英語が得意だと思っていました。しかし、それは英語でコミュニケーションを取る授業があまり無かったからだということを県短での生活の中で実感しました。私は、座学での英語は得意でも英語で実際に話することは大の

苦手だったのです。県短の授業では、英語で自分の意見を言ったり、英語で会話したり、英語で詩を作ったり、自分の苦手なことを行わなければいけない授業も多くあり、周りとの力の差を思い知りました。しかし、このような環境に置かれたことは基本的に負けず嫌いな性格の私にとって大変良いことでした。少しでも周りとの差を縮めたいと思い必死に勉強することができたからです。そして、勉強をしていく中で、外国について調べたり、本を読んだりしたことによって少しずつ英語や外国のことについて興味を持つようになる、楽しく英語を勉強することができ、英語を好きになることができました。英語を好きになり、自分の意見が言えるようになったことにより、少しずつ自信を持つことができたと思います。

苦手だったのです。県短の授業では、英語で自分の意見を言ったり、英語で会話したり、英語で詩を作ったり、自分の苦手なことを行わなければいけない授業も多くあり、周りとの力の差を思い知りました。しかし、このような環境に置かれたことは基本的に負けず嫌いな性格の私にとって大変良いことでした。少しでも周りとの差を縮めたいと思い必死に勉強することができたからです。そして、勉強をしていく中で、外国について調べたり、本を読んだりしたことによって少しずつ英語や外国のことについて興味を持つようになる、楽しく英語を勉強することができ、英語を好きになることができました。英語を好きになり、自分の意見が言えるようになったことにより、少しずつ自信を持つことができたと思います。

苦手だったのです。県短の授業では、英語で自分の意見を言ったり、英語で会話したり、英語で詩を作ったり、自分の苦手なことを行わなければいけない授業も多くあり、周りとの力の差を思い知りました。しかし、このような環境に置かれたことは基本的に負けず嫌いな性格の私にとって大変良いことでした。少しでも周りとの差を縮めたいと思い必死に勉強することができたからです。そして、勉強をしていく中で、外国について調べたり、本を読んだりしたことによって少しずつ英語や外国のことについて興味を持つようになる、楽しく英語を勉強することができ、英語を好きになることができました。英語を好きになり、自分の意見が言えるようになったことにより、少しずつ自信を持つことができたと思います。

を胸に三年間しっかりと勉強していきたいと思います。

大切なこと

文学科英語英文学専攻

日置 あかり



ですが、すでに入社し、仕事に励んでいる友人もおり、いよいよ私も社会に飛び出すんだ、という実感がじわじわと湧いてきます。

私は、いわゆる「すべりどめ」として県短を受験したのですが、志望校の受験に失敗し、県短に入學しました。初めは、どうしてここに通わないといけないのだろうという気持ちでいっぱいでした。しかし、その気持ちもすぐになくなりました。

県短でできた思い出を挙げていくと、本当にキリがありません。たくさんの大好きな友達ができ、毎日学校に行くことが楽しくて仕方がなかったです。同じ講義を受けたり、一緒にお弁当を食べたり、おしゃべりをしたり、何気ない日常ですが、楽しかったという一言に尽きます。

県短の先生方にもいつも助けられました。他大学の友達とそれぞれの大学のことについて話をすると、普通はそんなことを先生はしてくれないよ、と言われる場面が何度ありました。こんなことを書くと、今までどんなことを先生にやらせてきたのか、と思われるかもしれませ

んが、多くの人が思い当たる節があるのではないかと思います。それほど、先生方がひとりひとりを見ていて、力になってくださっているということだと思えます。

さて、私はこのようにたくさんの出会いに恵まれ、自分が思い描いていた以上の短大生活を送ることができました。ここで、最近あった印象に残っている二つのエピソードを紹介します。

一つ目は、私がある人と会話をしていたときのエピソードです。その人とは初対面だったので、私たちは自己紹介をしながら話していました。楽しい会話だったのですが、私が県短のことを大学と言ったことに対して、彼が「短大でしょ？」と訂正したとき、私は思わずむっとなってしまいました。なぜなら、そこで彼が大学と短大を、きっちり線引きしているのが見えてしまったからです。このエピソードのようなことは、今までにも何度かあったのですが、いつも私はむっとなってしまいます。短期ではあるけれども、大学であることに変わりはないはずなのに、どうして大学と名乗ってはいけない

のでしょうか。どう考えても、私はやはりむっとなってしまいます。

二つ目は、このむっとなっていた私が、勇気づけられたエピソードです。私は、就職先に車で通勤しなければならぬので、先日、車を買に行きました。そこで私の担当になっていたのは、私と年が変わらないくらい女性の女性でした。そして、契約手続きをしていく中で、彼女が私の二つ上の県短の先輩だということがわかりました。私は不思議な縁を感じてとても嬉しく思いました。彼女は、まわりの同期はみんな年上で、今年やっと自分と同じ年の人たちが入社してくるけど、ここまで頑張ってきたのだから、四大を出た人たちには絶対に負けたくない、と語っていました。この言葉に私は、はっとさせられ、とても勇気づけられました。

私たちの多くはこれから社会に出ていきます。私の一つ目のエピソードのように、むっとなるだけではなく、とても悔しい思いをすることがあるだろうと思います。しかし、私は自分が二年間、県短で学んだことに誇りを持っていたいのです。自分より年上の人とも、四大を出ている

人とも同じラインに立って仕事ができるように、努力していきたいです。つらくなったら、同じように頑張っている友達と励まし合いたいと思います。



彙報

◎二〇一四年度人文学会行事日程

十月三十一日『人文』第三十八号発行

二〇一五年

三月十七日「会報」第七十四号発行

三月十八日「会報」第七十五号発行

◎教員人事

区分	職名	氏名	異動年月日	備考
退職	教授	久木田美枝子	27・3・31	文学科 英語英文学専攻
〃	〃	釜田 忠	〃	生活科学科 食物栄養専攻
〃	准教授	中谷彩一郎	〃	文学科 英語英文学専攻
採用	教授	中村 昇二	27・4・1	生活科学科 食物栄養専攻
〃	准教授	石井英里子	〃	文学科 英語英文学専攻
昇任	教授	福田 忠弘	〃	商経学科 経済専攻
採用	講師	小林 朋子	27・5・1	文学科 英語英文学専攻
退職	准教授	石川満佐育	27・8・31	生活科学科 生活科学専攻
採用	助教	中熊 美和	27・10・1	生活科学科 食物栄養専攻
昇任	准教授	岡村 雄輝	〃	商経学科 経営情報専攻
採用	准教授	田中 真理	27・12・1	生活科学科 生活科学専攻

◎二〇一五年度人文学会行事日程

五月十二日 国文専攻昭和三十三年卒業

クラス会の方々十名が母校

訪問

五月十五日 教員総会（拡大評議員会）

役員交代

（会長）土肥

（評議員）望月、土持

十月二十三日評議員会 会則改正

十一月二十日臨時総会 会則承認

役員補充

（会計監査）石井

十一月三十日『人文』第三十九号

（久木田美枝子教授

定年退職記念号）発行

二〇一六年

三月十八日「会報」第七十六・七十七号

合併号発行

【会則・投稿規定】

○鹿児島県立短期大学人文学会会則

（一九七七年六月三日制定）

（二〇一五年十月二十三日改正）

第一章 総則

第一条 本会は鹿児島県立短期大学人文学会と称する。

第二条 本会の事務所を鹿児島県立短期大学文学科日文資料室におく。

第三条 本会は人文諸科学の発展に寄与

し、会員の研究振興を図ることを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 研究調査・資料の収集
- 2 論集『人文』の編集発行（年一回）
- 3 『人文学会報』の発行（年二回）
- 4 研究会・講演会等の開催
- 5 その他評議員会が適当と認めた事業

第二章 会員

第五条 本会は次の会員をもって組織する。

- 1 普通会员 鹿児島県立短期大学に所属し、人文諸科学に関心をもつ教員
- 2 学生会員 鹿児島県立短期大学に所属し、人文諸科学に関心をもつ文学科在学学生
- 3 特別会員 本会の発展に貢献し、評議員会において認められたもの
- 4 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、普通会员と同額以上の会費を納入するもの

第六条 会員として入会しようとする者は、入会申込書を会長に提出し、

評議員会の承認を得るものとする。

第七条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

第八条 会員は、退会届を会長に提出し任意に退会することができる。

- 2 会員が、次の各号のいずれかに該当するときは、退会したものとみなす。
 - (1) 本人が死亡したとき。
 - (2) 学生会員が卒業したとき。

第九条 本会は普通会员による総会を年度始めに開催する。ただし、必要のある時は臨時的に総会を開催することができる。

第三章 役員

第十条 本会に次の役員をおく。役員任期は一年とする。

会長 一名
評議員 若干名

(庶務担当・編集担当)

会計監査 一名

第十一条 本会は定期的に評議員会を開

催する。ただし、必要のある時は臨時的に評議員会を開催することができる。

第四章 会計

第十二条 本会の経費は、事業収入・寄付金および助成金をこれにあてる。

第十三条 会費は評議員会での審議を経て、総会の決議により別に定める。

第十四条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第五章 会則改正

第十五条 本会則の改正は評議員会での審議を経て、総会の決議により行う。

附則

1. この会則は、二〇一五年十一月二十日より実施する。

○会費に関する総会決議

(二〇一五年十一月二十日)

本会の会費を次のとおり定める。

2014年度 人文学会決算報告書

収 入	
前年度繰越金	546,662
人文学会費(教員会費)※	48,000
〃 (在学生会費)	67,000
預金利息	100

収入計	661,762
支 出	
印刷費(『人文学会報』)	48,870
郵送費(『人文』)	13,284
消耗品費	3,297

支出計	65,451
次期繰越金	596,311

※教員会費は2年分です。

普通会員 年二〇〇〇円
 学生会員 年一〇〇〇円
 ただし、普通会員については当分の間
 規定の半額を納めるものとする。

○論集『人文』投稿規定

(二〇一五年十月二十三日改正)

第1条 長さは和文の場合は二〇〇〇〇字
 以内、欧文の場合は、これに相当する
 分量とする。

提出原稿は和文横組の場合は42文
 字×35行／ページ(欧文の場合もこ
 れに準ずる)、和文縦組の場合は32
 文字×23行×2段／ページとする。

2 制限枚数を超える場合、超過分を投
 稿者負担とすることがある。

第2条 書式上の注意

イ 注は原稿末尾にまとめてつける。
 (脚注・各章末尾の注など、希望が
 ある場合は別紙に記載し添えるこ
 と)

ロ 外国の人名・地名・書名等は少な
 くとも初出の箇所で原名を書く。

第3条 締切日は毎年六月十日(週末の
 場合は翌月曜日)とする。

第4条 原稿の採否は編集委員会が決定
 する。

第5条 投稿は原則として本学教員(退

職者を含む)に限る。

第6条 採用論文の執筆者用抜刷は五〇
 部とする。

第7条 著作権については次のとおり扱
 う。

1 掲載論文等の著作権は執筆者に属す
 る。

2 電子媒体やネットワーク上の公開に
 伴う著作権、公開先、公開方法につ
 いては、「鹿児島県立短期大学人文
 学会論集『人文』掲載に係る利用許
 諾書」による著作権者の利用の許諾
 を必要とする。

《編集後記》

人文、会報とも発行が遅れて申し訳あ
 りません。今号は合併号としました。

『人文学会報』は文学科ホームページ
 で、(<http://www.k-kentan.ac.jp/it/>) 『人
 文』は鹿児島県学術共同リポジトリ(<http://karn.lib.kagoshima-u.ac.jp/>) で公開して
 います。卒業後もときどきチェックして
 みてくださる。

(望月)

<平成27年度卒業研究標題>

文学科日本語日本文学専攻

氏名	卒業研究標題
《木戸ゼミ …… 日本文学・古典》	
鮎川 侑香	『蜻蛉日記』における道綱母の心情変化
伊福 真実子	『源氏物語』における母親としての明石御方について —薄雲・藤裏葉・若菜巻からの考察—
今北 樹里	夢買いにおける夢の商品的価値 —『曾我物語』『時政が女の事』『橘の事』を中心に—
入船 春菜	「雨夜の品定め」語り手と葵上の関係についての研究
梅園 佳子	『和泉式部日記』から読み取れる和泉式部の人物像についての研究
上穂木 華蓮	『五行大義』からよむ『竹取物語』求婚難題譚の構成について
末満 夏美	『とりかへばや物語』における「きょうだい」と「入れかえ」について
別府 優里	「紫の上」という呼称の周知についての考察
《竹本ゼミ …… 日本文学・近代》	
大木 真帆	林芙美子『浮雲] —富岡とゆき子が考える「仏印と屋久島」と「雨」の役割—
亀之園 愛里彩	三島由紀夫『潮騒] —「潮騒」における千代子と安夫の役割について—
小緑 夏希	谷崎潤一郎『春琴抄] —語りの構造と役割についての考察—
高城 夕希歌	森鷗外『阿部一族] —森鷗外が『阿部一族』を書いた背景についての考察—
寺園 春菜	梶井基次郎『檸檬]に至るまでの作品について
長田 紗也加	『舞姫』と実際の鷗外の人生の出来事を比較して
永濱 沙弥華	安部公房『箱男』における物語構成 —物語性の喪失について—
間世田 桜子	太宰治『斜陽]論 —かず子の恋と革命についての考察—
《土肥ゼミ …… 中国文学》	
有村 香保	科挙は平等な制度か —「至公」「公道」の科挙—
内牧 小奈津	赤松家の家系と薩摩との関係について
椎原 沙織	決まった特徴があるかどうかの種類の英雄に分類されるのか —『三国志演義』・『水滸伝』の作品について—
竹原 優	日本に伝わる中国笑話についての研究
西川 舞	お見合いに対しての日本と中国の考え方の差について
藤崎 真由花	志怪書から志怪小説へ —歴史書はなぜ小説へ—
《望月ゼミ …… 日本語学、上代文学》	
竹元 遥名	「風の谷のナウシカ」に見る役割語
二之宮 健汰	鹿児島県肝属郡串良町における俚言について
福山 由紀子	現代における異体字の認識
松本 優	映画に見る若者ことばの変化
《楊ゼミ …… 日本語学、日本語教育学》	
井龍 なつみ	小学校国語教科書の中の役割語 —フィクション作品の登場人物の話し方の特徴と変化—
竹隈 日向子	フィクション作品の中の女ことばの役割
濱添 董	若者の方言意識と方言の使い分け —鹿児島方言の実態—
前田 美友子	LINEにおける依頼・勧誘のストラテジー

＜平成27年度卒業研究標題＞

文学科英語英文学専攻

氏 名	卒 業 研 究 標 題
《英米文学演習》（指導教員：轟 義昭）	
熊 迫 佑 理	映像作品から学ぶ日本とアメリカの警察
乗 鶴 大 志	ロック音楽の変化 — イギリスとアメリカにおけるロックを中心に—
高 竿 真 由	イギリスのジェントルマン文化と日本の侍文化 — 『ラスト・サムライ』『キングスマン』に焦点を当てて—
高 松 明日香	ジブリ映画の魔女とディズニー映画の魔女の比較
林 眞 子	ディズニープリンセスから読み取る理想の女性像
早 水 香 奈	映画作品『ロード・オブ・ザ・リング』とその原作の比較
《英米文学演習》（指導教員：フィリップ・アダメック）	
足 立 真 俊	Football Flags Never Fall
安 藤 夢 乃	Adjusting Michael Pollan's Rules for Eating to Address Social Factors Faced by Low-income Communities in the United States
井 上 華	The Liberated Women of <i>Sex and the City</i>
重 山 ひろか	Age-Gap Love
竹 島 みちる	Seeking Irony in South Korean Popular Music
宮之前 志 穂	A Little More Perfect Union
《比較文化演習》（指導教員：小林朋子）	
大 坪 由 佳	ゴシック建築と寺社建築にみる中世の人々の心
黒 崎 莉 子	日米に見られるコミュニケーション・ギャップ
小 園 奈 々	変わり者のヒーロー — 『緋色の研究』と『ピンク色の研究』から見るシャーロック・ホームズ—
日 置 あかり	階級にとりつかれた女性たち — 『高慢と偏見』と『ブリジット・ジョーンズの日記』から見る階級社会イギリス—
ブオラッカ・ハンナ	翻訳者のメロディー — 『グレート・ギャツビー』から分かる村上春樹の翻訳術—
福 田 千 聖	シンデレラ物語に見られる理想の女性像 — 『サンドリヨンまたは小さなガラスの靴』と『灰かぶり姫』の比較を通して—
松 下 恭 子	『もののけ姫』と『風の谷のナウシカ』における受容の日米比較
《英語学演習》（指導教員：遠峯 伸一郎）	
沖 島 優梨子	韓国英語の音韻論的特徴
上久保 結	『風と共に去りぬ』に見られる借用名詞について
田 中 恵里香	和製英語とカタカナ英語について
右 田 実乃里	注目を浴びる河口域英語
本 江 美 紗	『くまのプーさん』に見られるポライトネス
《英語学演習》（指導教員：石井 英里子）	
立 石 瞳 子	マレーシアの初等英語教育について
永 田 詩 織	日本人中学生の学習英語動機づけを高める
橋 口 恵 理	家庭でバイリンガルを育てる
廣 濱 杏 利	コミュニカティブな授業の理論と実践
松 岡 美沙妃	日本の大学生を対象にした韓国語学習に対する動機づけに関する一考察
松 元 歩 維	同時バイリンガルの言語習得の特徴と環境
宮 路 菫	外国語学習と個人差の関連性 — 性別、性格、人種に着目して—
柳 元 明日香	フォーカスオンフォーム
末 満 愛 菜	中学校英語科教育におけるコミュニケーション能力育成のための理論と授業実践